

なぜなぜ
ヒント①

人とのつながり方もやり方の見直しが必要！

今回の「なぜなぜ大会議」で指摘されたのは、「近所同士で挨拶以上の関係が生まれにくい」という課題でした。「昔は、さまざまな集まりがあり、中には強制的に参加させられるものもあったが、それが結果的に新しい友人やつながりを生むきっかけになっていた」という声もありました。こうした集まり方が、現代では難しくなっているという意見も出されました。

一方で、ご近所付き合いの希薄化に対する懸念

は根強く、「顔の見える関係づくりのために地区行事に力を入れたい」という思いも共有されました。しかし、「運営を担う人がいない」「同じ人がずっと頑張っていて、次の担い手が見つからない」といった課題も浮かび上がりました。

結局のところ、「楽しくなければ続かない」という声が多く聞かれ、これまでの地区行事のあり方やご近所付き合いのスタイルについても、見直しやアップデートが必要なのかもしれません。

なぜなぜ
ヒント②

「つながりづくり」ができる場所がほしい！

たとえば、子育て支援センターは未就学児を育てる保護者を主な対象としており、子育てを終えた町民が利用する機会はほとんどありません。そのため、子育てに関する悩みがあっても、「気軽に経験者に話を聞いてもらう」場面は生まれにくい状況です。

子育て支援センターに限らず、多くの公共施設が「利用目的が明確であること」を前提としており、偶発的な出会いや気づきが生まれにくくなっています。「日常的にさまざまな人が訪れ、自由に話がで

きる」余白のある場所は、町民同士の新たなつながりを生み出す可能性を秘めているからこそ、必要だと考えます。

また、多世代が安心して利用できるようにするためには、バリアフリーやユニバーサルデザインへの配慮、機能の集約化、利便性の向上などが求められます。現状の公共施設では十分に対応できていない部分もあり、議論からは、それらを補完する新しい施設への期待感の高まりを感じました。

なぜなぜ
ヒント③

地域の取り組みを応援する仕組みを！

当日の参加者の皆さんからは、つながりの希薄化を自覚しているからこそ、「何かに取り組まなければならない」という危機感が強く伝わってきました。また、「町民が主体的に課題を解決することの重要性」についても、多くの方が共感している様子がうかがえました。そのため、課題を共有できる場づくりや、地区イベントを盛り上げるための支援体制の充実を求める声が多く寄せられました。

「ボランティアも仕組み化してほしい」という意

見もありました。地区行事や町主催のイベントにおいて、運営側の人材をしっかりと育成していくことは非常に重要です。現状では、こうした活動が可視化されておらず、人と人とのつながりの中でのみ成り立っているため、広がりが生まれにくい状況です。持続可能な運営体制を構築するためには、町民の思いを具体的な仕組みとして形にしていくことが求められています。

公共施設再配置計画については、その必要性が「第6次中山町総合発展計画」にて説明されています。以下 URL または、右記コードよりご確認ください。

◎中山町「第6次中山町総合発展計画を策定しました」

<https://www.town.nakayama.yamagata.jp/soshiki/seisaku/machidukurisuishin/214.html>



【主催】中山町総合政策課まちづくり推進グループ・総務広報課防災安全対策室
(中山町大字長崎 120 番地／電話：023-662-4899)

【制作】東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科 田澤ゼミ

〈2025 年 12 月発行〉



「近所付き合いはあるけれど、それ以外のつながりが生まれにくい」のは、なぜ？

中山町では、現在策定を進めている「第6次中山町総合発展計画後期基本計画」及び「中山町公共施設再配置計画」をより良いものにするために、町民の皆さんが日常生活の中で感じている「もっとこうだったらいいのに…なぜ？」という不安や不満に向き合い、その根本的な課題と改善策を考える場として、「なぜなぜ大会議」を今年8月に開催しました。このレポートでは、議論されたテーマの一つ「近所付き合いはあるけれど、それ以外のつながりが生まれにくいのは、なぜ？」について、当日のワークショップで出された意見をお届けします。

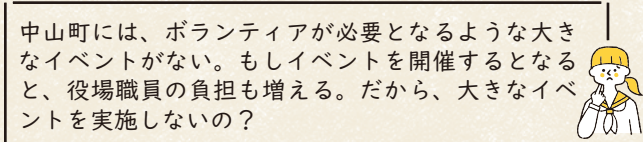

昨年度に実施した町民インタビューで印象的だったのは、どの世代においても地縁によるつながり(＝地域コミュニティ)を前向きに捉えている点でした。特に若い世代からは、「近所の人と仲が良い」「挨拶が返ってくるのが嬉しい」といった声が多く聞かれました。しかしながら、地域イベントの減少や多世代が利用できる施設の不足により、「地縁以外のつながりが生まれにくい」という課題が浮き彫りとなり、「自由に過ごせるたまり場が欲しい」といった意見も多く寄せられました。

今回のなぜなぜ大会議では、「つながり方」が多様化する中で、現状の地縁コミュニティが抱える課題とともに、新しいつながりのあり方についても、議論が深まりました。



「近所付き合いはあるけれど、それ以外のつながりが生まれにくい」のは、なぜ？

昔は、お嫁に来た人たちが集まる「若妻会」というのがあって、紹介されて行くようになったけど、楽しかったのよね。いろんな人と知り合うことができたし。地区の集会所や、中央公民館に集まってきましたね。



**地域の中で
知り合いづくり**
やっぱり地域の中のつな
がりは大事。「あいさつ」
の一步先の関係構築を目
指したい！

世代交代が必要な地区行事について、運営が「負担」と思われない工夫が大事。運営することが「楽しい!」と思ってもらえるように、やり方や関わり方のアップデートが必要かも。

時間と興味が合致した時に「手伝えます！」と言ってくれる町民が増えると、いろんなイベントをやりやすくなると思う。現状の「知り合いに頼む」というやり方にも限界がある。

会場使用料の免除等、「集まりやすい」「話やすい」状況を整えてほしい！

いろんな人が「集まりやすい」となるには、
一ヶ所にまとめることも視野に入れたほ
うがいいのでは？